

2022年2月25日

MMA 事業部の新設について

住友化学は、2022年4月1日付で、MMA（メチルメタクリレート）モノマーおよびアクリル樹脂（PMMA、ポリメチルメタクリレート）事業の強化に向けて、戦略策定とグローバル展開を一元的に行う MMA 事業部を新たに設けることといたしました。

MMA モノマーは主にアクリル樹脂の原料として用いられるほか、塗料、コーティング剤などさまざまな用途で利用されています。アクリル樹脂は、プラスチックの中でも極めて透明性が高く、さらに耐候性や加工性にも優れるため、高付加価値の樹脂として、自動車のテールランプカバーやサイドバイザー、家電、水槽、屋外看板、液晶ディスプレイ、建築材料、飛沫防止板などに、広く使用されています。MMA モノマーの20年の世界需要は300万トン、アクリル樹脂は130万トンに上り、今後も新興国を中心に各々年率3%程度の堅調な成長が予測されています。また、アクリル樹脂は解重合^{*1}により効率的に MMA モノマーに戻すことが可能なため、ケミカルリサイクルの進展が見込まれるプラスチックとして注目されています。

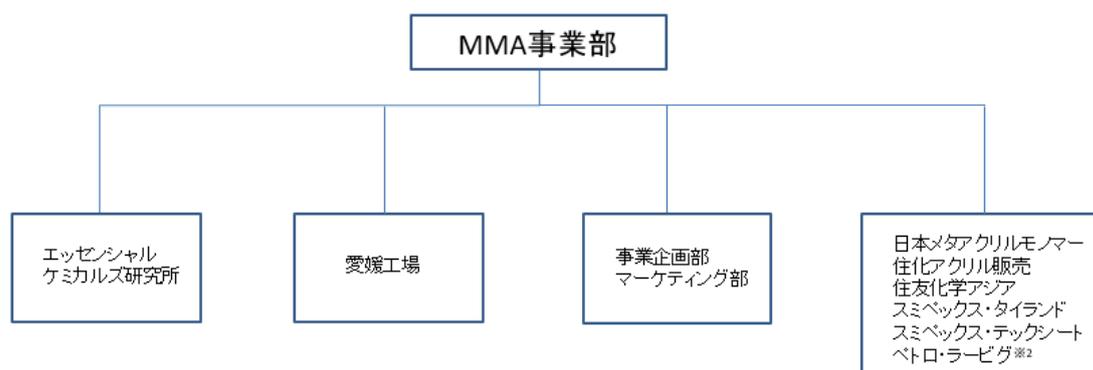
住友化学グループにおける MMA は、石油化学部門の重点強化学業に位置付けており、MMA モノマーからアクリル樹脂、シートに至るまで一貫して手掛けています。MMA モノマーは日本、シンガポール、サウジアラビアの3拠点で生産し、合計の生産能力は年産40万トンで世界4位の市場シェアを持ち、アクリル樹脂はシンガポールを中心に年産20万トンの能力を有しています。当社グループはこれまでも、需要の増加に応じた事業規模の拡大を図るとともに、意匠性を維持しながらも長期の耐候性と耐擦り傷性を維持し、さらに自動車内装・外装材や大型で横長かつ薄肉軽量化を達成した自動車リアランプカバーといった特長のある製品を提供することで収益を拡大してきました。

そうした中、カーボンニュートラルの達成に向けて、MMA を含む石油化学事業を取り巻く環境は大きく変化しており、これまでにない技術や市場が現れる過渡期にあります。住友化学は、強固な自社研究基盤を有する愛媛地区を中心として、ガラスや金属の代替として軽量化に資するアクリル樹脂について、新機能を持った材料の開発やケミカルリサイクル実証設備の設置などの取り組みを推進しています。また、海外ではアジアを中心としたグローバルな販売網を構築しており、今回新たに MMA 事業部を設置することで、地域特性に応じた最適化を志向する段階から、製品群ないし地域を俯瞰したグローバルな全体戦略へと転換し、将来を見据えたさらなる事業発展を図っていく考えです。

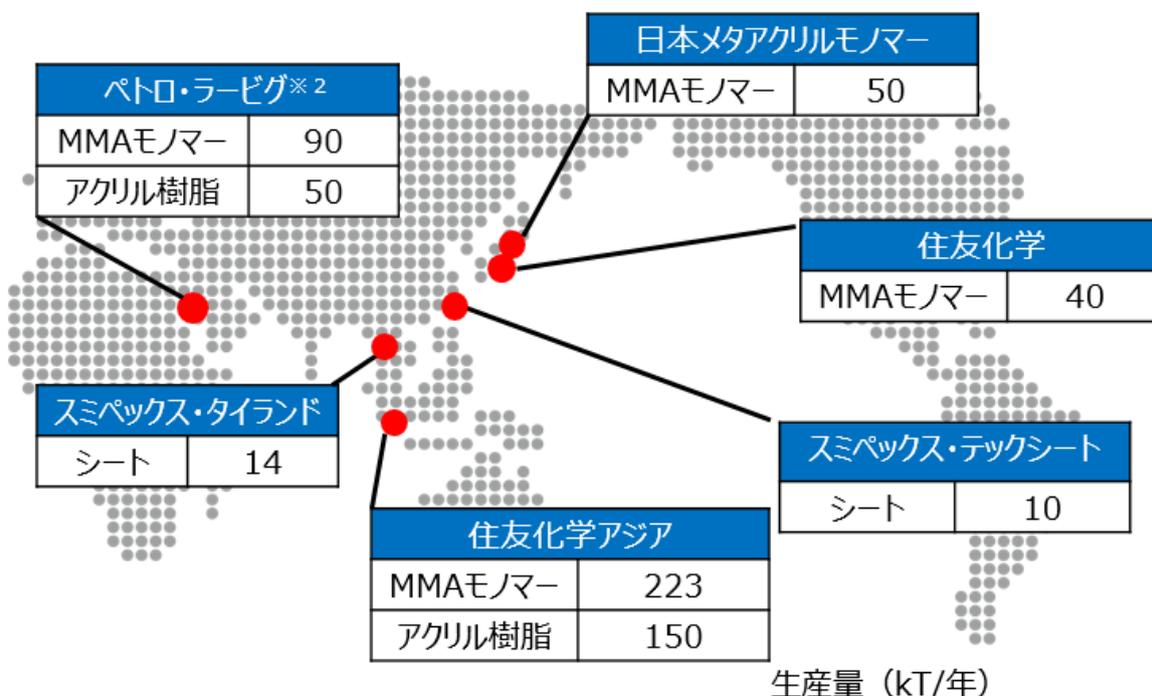
住友化学は、「技術を基盤とした新しい価値の創造に常に挑戦する」を経営理念に掲げています。これからもグループを挙げて、経済価値と社会価値を一体的に創出し、持続的な成長とともに、サステナブルな社会の実現に貢献してまいります。

※1 重合体が分解して単量体（モノマー）を生成すること

MMA 事業の推進体制



MMA グローバル拠点



※2 持分法適用会社

以上